

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル 3PRA 分科会

第 29 回会合議事録

日時：2021 年 6 月 15 日（木）10:00～11:45

場所：WebEx による Web 会議

出席者：

委員：高橋主査（京大）、津崎副主査（電中研）、木村幹事（JAEA）、飯本（東大）、石川（CTC、
退任により途中で退席）、岩波（日立 GE）、岡村（原燃）、笠川（原電）、加藤（MHI）、
菅野（VIC）、佐々木（関電）、斯波（JANUS）、滝口（東電）、高原（JAEA）、田原（東
芝 ESS）、泥谷（NEL）、向原（TEPSYS）、横山（藤田医科大、途中参加）【18 名】

委員候補者：池田（CTC）【1 名】

常時参加者：市川（規制庁）、宇田（関電）、楠木（INSS）、藤井（原電）、松本（NESC）【5
名】

常時参加者候補：成宮（JANSI）【1 名】

常時参加者代理：和田山（規制庁）【1 名】

欠席委員：なし【0 名】

配布資料：

P8SC29-1：人事について

P8SC29-2：第 28 回レベル 3PRA 分科会議事録

P8SC29-3：レベル 3PRA 標準改定に係る作業について

P8SC29-4：リスク専門部会 5 ヶ年計画

P8SC29-5：レベル 3PRA 実施基準の改定について

P8SC29-6：専門性調査票について

P8SC29-7：標準改定のための意見募集

P8SC29-8：日本原子力学会標準 原子力発電所の確率論的リスク評価に関する
実施基準（レベル 3 PRA 編）：2018

P8SC29-9：日本原子力学会標準作成ガイドライン：2020

P8SC29-10：ASME ANS L3PRA Standard（再配布禁止）

P8SC29-11：レベル 3PRA 改定作業検討スケジュール案

参考資料：

P8SC29-参考 1：レベル 3PRA 分科会 名簿（第 29 回分科会以前）

P8SC29-参考 2：レベル 3PRA 分科会 名簿（第 29 回分科会後）（案）

議事：

1. 定足数の確認、配布資料の確認

委員 18 名中 17 名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることを確認した。

2. 人事について (P8SC29-1、P8SC29-参考 1、P8SC29 参考 2)

委員の選任 (1 名) 及び常時参加者の登録 (1 名) について了承された。また、委員の退任 (1 名) を報告した。

分科会の 3 役として、高橋主査、津崎副主査、木村幹事が了承された。

3. 前回議事録の確認 (P8SC29-2)

前回議事録について了承を得た。

4. レベル 3PRA 標準改定に係る作業について(P8SC29-3)

レベル 3PRA 標準改定に係る作業について確認・検討を行った。

4.1 標準改定について (P8SC29-4、P8SC29-5)

レベル 3PRA 標準の改定は、リスク専門部会標準策定 5 年計画に従って進める旨を説明し了承された。また、リスク専門部会及び標準員会に提出する改定趣意書 (P8SC29-5) について、本分科会での議論を踏まえた上で修正が必要な個所が無いことを確認し、了承された。

なお、改定趣意書への反映は必要ないものの、福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出に対する関心が高まっている状況にあることから、水系放出について、標準での扱いを検討しておくべきとの意見が出された。レベル 3PRA 標準では水系を対象外としていることに対し、使用可能なソースタームが存在しないなど水系考慮における課題を解説に記載した上で、対象外にするなどの対応が考えられる。

ソースタームが利用できるかという点について、SFP (使用済み燃料プール) をレベル 2PRA 実施基準に取り込むかどうかの議論がなされているようだが、状況を把握しておいた方がよいとの意見があった。(→分科会後の調査で、L2PRA 実施基準では SFP を適用範囲外にしていることを確認した。)

4.2 作業分担について (P8SC29-6)

作業分担の方法及び委員の追加について確認した。前回の改定作業開始時と同様に、委員及び常時参加者の専門性調査を行い、その結果に基づいて作業グループを決定する。広く専門性を把握するために、専門性調査表のグレーの項目について、自身の専門内容に○を付ける。委員は幅広い視点で○をつけ、常時参加者は任意とする。専門性調査表は 6 月 30 日までに木村幹事に提出することとした。

次回分科会で作業グループを決定し、作業を進めていく。委員またはオブザーバ

一の追加が必要な場合は、推薦者と3人で協議して検討する。

4.3 文献調査等について (P8SC29-7)

調査対象及び調査方法について確認した。現行の標準に記載されている文献および新たな知見となる文献に関する調査結果の報告様式は次回分科会で配布する。分科会メンバーから所属組織のメンバーへのアンケートについては、次回分科会でアンケート案を作成し、議論を行う。アンケート結果で抽出された課題を各作業グループに振り分けて標準への反映を検討する。

4.4 標準文案作成について (P8SC29-8、P8SC29-9、P8SC29-10)

標準文案の作成手順について確認した。作業グループ毎に現行の標準を修正し、修正案について分科会で議論する。記載箇所の仕分け、新知見の反映などの議論が進んだ段階で考え方を整理し、階層化のための色分けを行って、最終的な文案作成の段階で階層化の検討を行う手順とする。また、作業グループ毎にASME標準との対応をチェックする。これは文献調査と並行して実施する。なお、ASME標準とのチェック結果は分科会検討用の内部資料の扱いであり、実施基準への掲載は行わない。

4.5 スケジュールについて (P8SC29-11)

標準改定版発行までのスケジュールについて確認した。本日了承された改定趣意書を8月6日のリスク専門部会、続いて9月1日の標準委員会に報告し了承を得る。次回分科会(第30回)は7月下旬から8月に開催を予定しており、作業グループとリーダーを決定する。その後、3か月に1回のペースで分科会を開催し、文献調査結果、ASME標準との対応チェック、標準文案作成を進める。

4.6 その他

適用範囲および転載許諾について確認を行った。適用範囲を発電用軽水炉原子炉施設とすることに意見は無かった。

5. その他、今後の予定、状況連絡等

次回分科会は7月下旬から8月を予定している。木村幹事からスケジュール表を送付するので、予定を記入し返信すること。

次回分科会の内容は、グループ分け、リーダーの確定、資料様式に関する議論とする。次回もWeb会議での開催を予定している。

以上